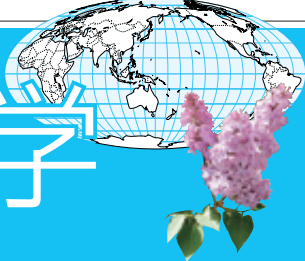


学報

学校法人 北海学園
北海道商科大学
アジアの時代に、アジアを学ぶ。
Hokkai School of Commerce Newsletter



Vol.24
2018.6.22
発行:北海道商科大学
編集:北海道商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
TEL:011-841-1161(代)
FAX:011-824-0801
http://www.hokkai.ac.jp
制作:(株)ラボット

主な記事

3. 学部長挨拶	2面
4. 研究科長・学部長・センター長紹介	2面
5. 卒業式挙行	2面
6. 留学生修了式	2面
7. 就職状況について	3面
8. 保護者説明会	3面
9. 成績優秀学生表彰	3面
10. 入試結果概要	4面
11. 特集 2018年度 新入生座談会	4面
12. 交換留学生歓迎会開催	5面
13. 留学生紹介	5面
14. 本年度も地域交流始まりました	5面
15. STAFF NOW!	5面
16. 留学だより	5面
17. 「研究のいま」石原享一教授	6面
18. ゼミ訪問 加藤ゼミ	6面
19. 中国社会科学学院とシンポジウム	6面
20. 2018年度 前期公開講座	7面
21. 外国語スピーチコンテスト・語学検定報告	7面
22. サークル活動紹介	7面
23. OB・OG NOW!	7面
24. 高校生懸賞作文を募集	7面
25. 新任教員・職員、交換教員紹介	8面
26. BOOKS NOW! ベストリーダー	8面
27. 新刊紹介	8面
28. 学生相談室ニュースレター6	8面
29. 行事予定	8面

交換留学生を迎え歓迎会開催！



4月14日開催の平成30年度交換留学生歓迎会にて (関連記事5面) 本学教員・学生と中韓からの交換留学生

入 平成30年度 学式挙行

平成30(2018)年度入学式が4月3日の火曜日、ホテル札幌ガーデンパレスにおいて挙行されました。今年度の入学者は、大学院商学研究科修士課程2名、商学部224名、交換留学生17名（中国・山東大学威海7名、煙台大学6名と韓国・大田大学校4名）のあわせて243名の新入生を迎えました。森本学長の式辞に続いて入学者を代表して、小林風沙（北海道大谷室蘭高校）さんによる入学者宣誓が行われ、その後研究科長、学部長、各センター長、教員の紹介が行われました。また式終了後には、商学部長伊藤昭男教授より新入生・保護者へ説明会を行った後、見学専用バスで、希望者向けに本学施設見学も実施いたしました。（葛西）



入学者代表・小林風沙さんによる入学者宣誓



式辞を述べる森本正夫学長



森本正夫学長による平成30年度入学者への入学許可宣言

平成30年度（第42回）入学式式辞

北国の春のこの佳き日に、北海学園の理事・監事・役員の方々、また設置校の北海学園大学の学長 安酸敏眞先生、北海高等学校の校長 山崎省一先生、北海学園札幌高等学校の校長 大西修夫先生をはじめ、多数のご来賓の皆様のご臨席をいただき、ここに北海道商科大学の新入生224名と、交流校である中国山東大学（威海）から7名、中国煙台大学から6名、韓国大田大学校から4名の留学生を迎えました。

また、東アジアの時代を見据え、流通、観光、経営分野の高度な専門知識・能力を備えた人材育成を目指す、大学院商学研究科修士課程2名、合わせて243名の入学式を、保護者、関係者の皆様とともに挙行できますことは、私ども教職員一同が深く喜びとするところであります。

東京以北で最大の都市、人口190万人を擁する札幌市の豊平区で、地下鉄に直結した恵まれた都市環境のもとに開学し、13回目の入学式を迎えました。

この北海道商科大学の新たな歴史は、入学された皆さんが、築き上げて行くものです。教職員一同も、優れた成績で入学した皆さんと独自の校風を作っていくことを楽しみにしております。

北海道商科大学はまだ歴史の浅い大学ですが、母体である北海学園の歴史は古く、創立は133年前の明治18年、西暦1885年にさかのぼります。現在、北海学園は、北海学園大学と大学院のほか、北海道高等学校と北海学園札幌高等学校を設置しており、1万1千名ほどの学生生徒が日夜、勉学に励み、また課外活動に精を出しています。学園全体の卒業生は16万名を超え、道内はもとより、全国各地、さらに海外でも活躍しております。きょう皆さんは、その北海学園の仲間として迎えられたわけです。

新入生の皆さんは、新しいアジアの時代のグローバル化を見据えた言語・文化・社会及び国際関係を中心に学び幅広い問題意識から商取り引きやビジネス活動に欠かせない基本となる知識を広く深く学

び、経済学部や経営学部とはまた違った、実践教育にも力を入れて展開しております。特に最初は、皆さんの将来に役に立つ外国語の教育と異文化の理解に力を入れています。本学の海外の教育研修交流姉妹大学は、北海道の姉妹州のカナダのアルバータ州南部にあり、37年の交流実績があるレスブリッジ大学、中国では沿岸部の風光明媚な山東半島にある、山東大学と煙台大学、韓国では札幌市と姉妹都市になりました、昔の百濟王国の地にある大田広域市の大田大学校がすでにそれぞれ皆さんを受け入れる準備を整えています。皆さんは、アジアの時代にアジアの若者たちと新しい大学で学ぶことになるわけです。

さて、大学とは広く知識を学び、真理を探究するところです。基礎的な教育もあれば専門的な研究もありますが、総じて、教育研究の機関として、人類の学問的文化的遺産を、次の世代に伝達し継承するという、公共性の高い社会的使命を負っています。そうした大学で学ぶことは人格形成にもつながります。そのため本学では多彩なカリキュラムを用意しております。特に、少人数教育を重視し、研究と教育を統合する人材育成プログラムを展開しています。また、語学、情報管理、観光、貿易通商、社会行政などの分野で高度な技能と資格の取得を目指すなど、学問を通して実践的教育を実現して行くカリキュラムを特徴としております。私は常々、大学教育の真髄は、学問を通じての、教師と学生との人間的一体化であると考えております。ゼミナールを通じての、教授と学生との学問に関するやり取りを通じて、皆さんの人格形成がなされるものと期待しております。歴史ある北海学園の、恵まれた環境の中で、学生生活を大切に、課外活動や社会活動にも積極的に取り組んでいただきたいと願っております。

新入生の皆さんにおかれましては、入学式の喜びを忘れず、これからの学生生活に反映させてください。明日への飛躍を確かなものとするよう、皆さんが健康に留意し、精一杯努力することを期待して学長の式辞といたします。

学 平成30年度 部長挨拶

商学部長 伊藤 昭男



4月より新年度が始まり、学生諸君は各学年別にそれぞれ気持ちを新たにしていることと思います。大学時代は社会人になる前に与えられた自由に時間をデザインできる貴重な期間です。しかし「自由な時間」ほど自己の真価が問われる時はありません。なぜなら、その時をいかに過ごしたかが如実に軌跡に現れるからです。過ぎた時間を事後に振り返り、自分がどの様に成長したかを確認することで自分の努力を評価することができます。また、周りからも評価されることになります。自由な時間を「暇な時間」と取り違えてはなりません。「自由な時間」を人生の中でもとりわけ貴重な時間と自覚し、是非自分にあった挑戦をしてほしいと思います。留学・大学院・各種施設など、北海商科大学はもとより北海学園大学をはじめとする北海学園の社会環境全般を有効に活用し、潜在能力を存分に開花させてほしいと思います。また、その切磋琢磨の過程で「権利と責任」の同時理解も学んでほしいと思います。未来の社会を担う皆さんの成長を心より期待しています。

研 究科長・学部長・ センター長紹介

■大学院研究科長	阿部 秀明 教授
■商学部長	伊藤 昭男 教授
■教務センター長	佐藤 博樹 教授
■学術発展センター長	田辺 隆司 教授
■入試・広報センター長	堂徳 将人 教授
■キャリア支援センター長	村松 祐二 教授
■学生支援センター長	加藤 由紀子 教授
■国際交流センター長	水野 俊平 教授

卒 平成29年度 業証書・学位記 授与式挙行

平成29(2017)年度卒業証書・学位記授与式が3月18日(日)、中島公園に隣接する札幌パークホテルにて挙行されました。

今年度は大学院商学研究科ビジネス専攻博士後期課程修了生1名、同研究科ビジネス専攻修士課程修了生1名、商学部卒業生136名（うち商学科93名、観光産業学科43名）に卒業証書・学位記が森本学長より授与されました。その後教育職員免許状の授与、学業成績優秀学生の各学科1名に表彰状・記念品が授与されました。

在学生を代表して商学部1年の小川優さんが卒業生へ祝辞を送り、卒業生を代表して観光産業学科の及川拓洋さんが答辞を述べました。卒業生・修了生はご来賓や保護者、教職員の多数に見送られながら、春浅い学窓を巣立ちました。

卒業式後は同ホテル内で「卒業生を送る会」が催され、本学同窓会長田口茂春会長、森本正夫学長が祝辞を述べ、加藤由紀子学生支援センター長より、在学中顕著な活動を行った個人と団体の表彰を行い、教職員や同期生の皆さんが大学生生活最後の時間を有意義に過ごしました。（葛西）



卒業証書・学位記授与式と卒業生を送る会



卒業生集合写真

留 学生修了式

2月21日(水)午前11時20分から、本学1号館8階の開発政策研究所にて平成29(2017)年度交換留学生及び大学院研究生の修了式が行われ、森本正夫理事長・学長から中国・煙台大学からの交換留学生6名、韓国・大田大学校からの交換留学生2名、大学院研究生1名に修了証書が授与されました。これに先立ち、10時30分から405号教室で韓国・中国の留学生により、留学成果発表会が行われ、教職員や日本人学生の前で1年間の留学の成果と思い出を発表しました。写真撮影の後、12時からは2階の自由学習コーナーにて軽食を摂りながら、留学生と日本人学生との交流会が行われました。13時からは再び405号室に場を移し、本学から中国・韓国へ派遣され、6か月の留学を終えて1月に帰国した本学の1年生による留学報告会が行われ、中国と韓国での留学の成果と思い出を発表しました。（水野）



帰国した派遣交換留学生、中韓からの交換留学生、大学院研究生と教員の集合写真

就職状況について

平成30(2018)年3月卒の就職状況は、昨年同様に好調な結果となりました。好調が続く企業業績に基づき、企業側には積極的な採用意欲がみられます。このため全国的に求人数が伸びましたが、就職希望者数は伸び悩み、その結果労働力の需給関係で逼迫した状況が続いています。3月末時点の進路決定状況は、商学部全体で96.1%の就職決定率となりました。学科別では商学科95.5%、観光産業学科97.5%となっています。就職先はこれまで同様に卸売・小売、サービス、金融・保険、宿泊・飲料サービス、情報通信など、流通・サービス業中心に広範囲に渡りますが、本社所在地の半数以上は石狩管内となっています。

平成31(2019)年3月卒の採用活動スケジュールは、3年生の2018年3月1日に会社説明会開始、4年生の6月1日に選考活動開始、同10月1日に内定という日程（経団連と大学等の申合せ）が、すでに公表されています。しかし、6月を待たず「面談」等の形で実質的選考を進める企業は珍しくなく、採用活動を念頭にインターンシップを実施する企業も増えていて、採用活動の前倒しが進みつつあるのが実情です。このため就職情報サイト上では、学生一人当たりの企業説明会参加回数やエントリー企業数が減り、就職活動終了時期が早まっているといった指摘がなされています。（村松）

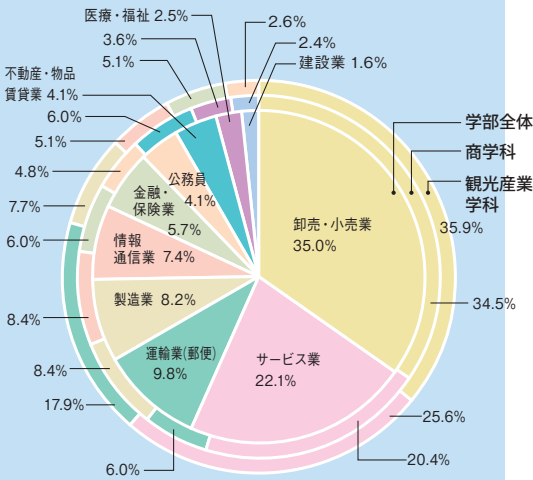


2月に行われた業界研究学内イベントLIVE Voice（北海学園大学との合同開催）

2018年3月卒/業種別就職状況

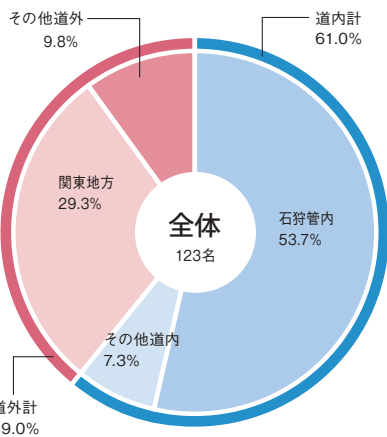
(割合は四捨五入による)

円グラフ内側から、学部全体、商学科、観光産業学科



2018年3月卒/本社所在地別就職状況

(割合は四捨五入による)



保護者説明会を開催

平成30(2018)年度の保護者向け説明会が、2年次5月26日(土)、3年次6月2日(土)に、本学を会場に開催されました。2年次向けは、入試・広報、教務、国際交流、学生支援、キャリア支援の、5センターの学生向け業務等を広く理解する目的で、また3年次向けは、就職活動に関わるキャリア支援を中心に、毎年度実施されています。2年次の説明会では、冒頭伊藤学部長より本学を取り巻く現況や今後の取り組み等について説明があり、それに続いて各センター長から部局ごとの事業説明や成果報告などの解説がされました。

3年次の説明会では、キャリア支援センターより平成29(2017)年度の就職状況および平成30年度の雇用市場環境、就活動向、就職支援体制等について、説明がなされました。これに続いて、外部講師による講演「就職活動への保護者の関わり方」がありました。講演終了後は、参加者からの質疑応答と、個別相談の場が設定されました。多くの保護者を迎えることとなった2日間でした。（村松）



3年次保護者説明会 写真下は個別相談会（6月2日）



成績優秀学生表彰と2年次所属学科ガイダンスについて

3月23日の新2年次、3年次ガイダンスにおいて、新2年次と新3年次の学生を対象として、北海商科大学教育振興資金による学業成績優秀学生・課外活動優秀学生表彰を実施しました。本学は教育振興資金による学生の海外留学及び対外活動表彰を以前より行ってきましたが、平成25(2013)年度からは学業成績及び課外活動優秀学生にも表彰対象を拡大しました。平成30(2018)年度は、学業成績優秀学生として通算GPA(Grade Point Average)ポイントに基づく成績評価の第1位～3位の新2年生3名、新3年生3名を、3月23日のガイダンス時に表彰するとともに奨励金を授与しました。今回の表彰等により今後もモチベーションを一層高め、学業成績のさらなる向上や対外活動で多くの成果をあげられるよう期待しています。

また新2年次ガイダンスにおいては、所属学科決定までのスケジュール等を確認したうえで、両学科教育委員会委員長が学科の概要とカリキュラム・ポリシーを説明しました。5月23日に第1回所属学科選考ガイダンスを実施し、両学科委員長による学科選考に向けた説明後、「ゼミナール見学希望届」を受け付けました。6月5日～6月14日にかけて両学科のゼミナールを見学して志望学科選択の参考にしてもらい、6月27日の第2回ガイダンス後、「志望学科届」を受け付け選考作業に入ります。所属学科の発表は9月12日を予定しています。（佐藤 博）



伊藤昭男学部長よりガイダンスにて行われた成績優秀学生の表彰



平成30年度入学式会場前にて

（Ⅱ期）5名の計35名、併設校推薦入試において21名、合計107名（前年115名）の出願となり、過去最高だった昨年に続き100名を超える出願者を得ました。

本年度入試結果の大きな特色には、センター試験利用入試の出願者の大幅増があります。また、実際に入学した学生が47名（手続率26.7%）と過去最高となりました。このことも、一般入試・推薦入試がいずれも昨年並みであったことと比べ特徴的でした。

その結果、入学者は224名と想定を上回りましたが、入学生に実施したアンケートでは、本学入学を決めた理由では「商学が学べる」が最も多く、学生生活の期待では「外国語の授業」「資格取得」などが多く見られ、入学者が本学の共学ポリシーに共感し、高い意欲を有することが窺われ、入学後の成長が期待されます。（堂徳）



座談会出席者の皆さん

2018年 入試結果概要

本年度は「2018年問題」という言葉が示すとおり、道内高校卒業者数が大幅に減少するとともに、本学への進学者が最も多い道央においても18歳人口の減少が顕著となりました。また、近年の首都圏等の大規模私立大学の定員増による「大学入試の易化」などが相まって、入試環境には極めて厳しいものがありました。一方、「アジアの時代にアジアを学ぶ」を掲げる本学では、外国人観光客の大幅な増加が続く中において、国際ビジネスや国際観光が学べるとの注目を集める場面も見受けられました。

こうした状況にあって、本学では一般入試、センター試験利用入試、推薦入試を合わせた志願者473名（前年416名）となり、入学定員180名に対する倍率は2.6倍（前年2.3倍）となって、2011年度入試以来7年振りに多くの出願者を集めました。本年度は入学定員増（150名から180名）が完成年度を迎えることから、公募入試Ⅱを導入するなど、若干の入試制度改革を実施しました。

一般入試のうち、3教科3科目（2月8日）入試では135名（前年138名）が、2教科2科目（2月13日）入試では33名（前年36名）が出願し、各入試の平均得点率は概ね60%、実質競争倍率は1.1倍と、いずれも昨年同様の傾向となりました。

センター試験利用入試のうち、3教科3科目（Ⅰ期）入試では189名（前年122名）が、2教科2科目（Ⅱ期）入試では9名（前年5名）が出願し、合計198名（前年127名）の出願となり、前年を大きく上回って、2009年度入試以来の9年振りに多くの出願者を集めました。

特別入試では、指定校推薦入試において51名、公募推薦入試において、（Ⅰ期）30名・

特集 新入生座談会 — 北海商科大学で 学ぶことを選んで—

入学式から約3カ月が過ぎ、1年生もようやく新しい環境に慣れてきたころでしょう。今回は、札幌圏以外からの新入生4名に、本学に入学するまでのことや学生生活について語ってもらいました。

●司会
堂徳 将人 先生
入試・広報センター長
教授



——みなさんは札幌圏以外の出身ですが、本学をどのように知ったの？

佐々木 受験する大学を迷っているときに高校の先生から薦められたのと、地元で行われた大学説明会です。

菅原 私も担任の先生に薦められて。進学した先輩の就職率が高いというのも聞いて、興味を持ちました。

松本 僕は山形出身ですが、札幌に祖父母がいて、小学生のころはよく遊びにきていました。商業系大学への進学を考えていたのですが、地元には希望する大学が見当たらないなと思っていたとき、祖母から、札幌に北海商科大学があると教えてもらいました。

秋元 自分は経営学と経済学に興味があって、どちらも学べるところがないかインターネットで調べていたとき、この大学のホームページを見つけました。さっそく大学案内を取り寄せて、商学（経営・経済）の講義が充実していると知り、先生にも「北海学園の姉妹校だから絶対にいい」と言われて「ここしかない!」と。ちょうど地元でも大学説明会があって、実際に話を聞くこともできました。



●佐々木 七菜さん
八雲町出身
八雲高校卒
語学は中国語履修
指定校推薦

——最終的に、なぜ本学を選んだのかな？決め手があったら教えてください。

秋元 商学（経営・経済）を学びたいというのと、語学をしっかり学べるというのが大きかった。ほかの大学だと語学の授業は週に数回ですが、ここはほぼ毎日じゃないですか。卒業までに1つくらい語学を身につけたいというのがあったので、力がつくと思いました。

松本 僕の場合、祖父母の家から通えるのが理由のひとつですが、高校のときよりレベルの高い商業系の資格が取れるからです。それ

に今の時代、語学を1つは習得しておいたほうが役立つと思ったので。

菅原 北海商科大学は海外留学や国際交流が盛んだし、アジアの文化や歴史も学べて、語学の勉強に力を入れて取り組めるからです。

佐々木 私は中国語を選択していて、中国への留学も考えています。半年間の留学費用がほかの大学に比べて安いなど、留学制度が充実しているところに惹かれました。



●松本 拓巳くん
山形県山形市出身
山形市立商業高校卒
語学は英語履修
センター試験利用入試

——全員が違う区分で入試を受けていますね。

松本君はセンター試験利用入試、菅原さんは一般入試、佐々木さんは指定校推薦、秋元君は公募推薦。それぞれの入試対策は？

松本 センターは「政治・経済」、そして「簿記・会計」が選べたので、その2教科に絞って勉強しました。

菅原 一般入試は勉強したところがないかインターネットで調べたとき、この大学のホームページを見つけました。さっそく大学案内を取り寄せて、商学（経営・経済）の講義が充実していると知り、先生にも「北海学園の姉妹校だから絶対にいい」と言われて「ここしかない!」と。ちょうど地元でも大学説明会があって、実際に話を聞くこともできました。

佐々木 指定校推薦は集団面接ですが、ラフで話しやすい雰囲気でした。前もって出されていた2つの課題のうち「今後、北海道を発展させていくためにはどういうことが重要だと思いますか」を選び、高校のビジネス科の先生にチェックしてもらいました。1分間話さなければならないので内容を考えるのが大変でしたが、練習の成果が出せたと思います。

秋元 公募推薦は小論文と面接です。小論文は、今まで国際関係が出ていたのを知っていたので、過去問題を全部やりました。小論文は高校の授業でやらないし文章の構成が難しいので、国語の先生と毎日2時間、書く訓練をしました。最初は制限時間の90分では書けなくて、3時間くらいかかっていましたね。そして試験当日、小論文の問題は、そのころニュースになっていた北海道の鉄道廃止についてでした。「え、国際関係じゃないの?!」と一瞬、言葉を失いましたがなんとか書けました。そのあとの面接は自分だけ5分くらい



●秋元 謙光くん
函館市出身
七飯高校卒
語学は韓国語履修
公募推薦

で終わったので、「落ちたな…」と思ってがっかり。でも、高校時代の頑張りが評価されたのかもしれない。

——1年生のカリキュラムでは語学の授業が沢山あると思いますが、期待どおりの勉強はできている？

佐々木 中国語の授業は4人ともネイティブの先生で、思った以上の勉強ができています。

菅原 英語も、ネイティブの先生の授業が週3回あるので身につくと思います。

松本 英語の授業は、高校のときの文法中心の勉強と違って、日常会話のように先生から話しかけられるので実践的。とっさに話せる能力を身につけることができそうです。20名のクラスなので、毎回必ず話す機会があって役立ちます。

秋元 高校のときは、F X(外国為替証拠金取引)やビットコインといった仮想通貨について自分で勉強していましたが、同じように興味を持つ人がまわりにいませんでした。大学では同じ興味を持って一緒に勉強できる友人ができたので嬉しいです。語学は韓国語ですが、女子の語学レベルが高くて、ついていくのが大変(笑)。アルバイト、授業の勉強、さらに自分の好きなことを勉強していたら1日24時間じゃ足りない! 毎日が充実していて楽しいです。



●坂口 可奈 先生
入試・広報センター委員
講師

——ところで、初めて親元を離れての暮らしは楽しい？それとも大変？

佐々木 部屋に帰ってご飯がないと「一人暮

らしなんだな。親がいるっていいな」としみじみ思います。でも、一人だと時間を自由に組み立てられるし、お弁当を作るのも楽しいです。

菅原 私は今まで家事や料理をしたことがなくて、全部一人でやるのがすごく大変です。

秋元 自分も実家ではなにもしたことがなかったの、最初ガスの点け方がわからなかった。元栓を開けることを知らなくて、シャワーが水しか出ずコンロも点かないので、親に電話して聞きました(笑)。

松本 僕はみんなと違って朝起きるとご飯ができていて…すみません(笑)。祖母がすべてやってくれて楽ですが、生活のルールが実家と違うので戸惑うこともあります。



●菅原 伶さん
網走市出身
網走南ヶ丘高校卒
語学は英語履修
一般入試

——今の満足度は何%？そして卒業後の夢を聞かせてください。

佐々木 満足度は100%です! 中国に留学して、卒業後は留学で得た経験や語学力を使った職業に就けたらいいなと思っています。

菅原 90%です。英語が苦手で、まだついていけないところがあるのでマイナス10%。夢は具体的に決めていませんが、大学でスキルを身につけて、将来の幅を広げていきたいです。

松本 かなり満足の100%です! 卒業後は、漠然と金融関係に就きたいと思っています。

秋元 今は75%くらい。まだ自分が学びたい商学の授業がないからですが、今後は卒業後に保険関係の仕事に就くため、頑張って学修し100%にしたいと思っています。

——はい、ありがとうございました。本学入学への期待の通り、入学後の満足値が高いので安心しました。ではみなさん、目標を大事にして、四年間の学生生活を充実したものにしてくださいね!

ようこそ北海商科大学へ！

交換留学生歓迎会

4月14日(出)午前11時半から、本学地下1階の自由学習コーナーにて、平成30(2018)年度留学交流会が実施されました。協定校である煙台大学・大田大学校からの交換教授の先生、今年1年間本学に留学する協定校からの留学生（山東大学7名・煙台大学4名・大田大学校4名）と教職員、大学生、日本人学生が参加しました。今年は昨年を大幅に上回る90名を越える参加がありました。交流会では伊藤商学部長、阿部大学院研究科長の挨拶に続き、国際交流センターの教員紹介、協定校からの交換教授である于伝鋒先生（煙台大学）、朴喜南先生（大田大学校）の紹介、留学生・大学院生の紹介、記念写真の撮影などが行われ、軽食を摂りながら楽しい交流のひと時をもつことができました。交流会が終わっても、会場ではいつまでも語らいの場が続きました。（水野）

● 交換留学生紹介 ●

中国 山東大学(威海)から



左から
楊余斌 (YANG YUBIN) 君
楊恒瑜 (YANG HENGYU) 君
翁雪琪 (WENG XUEQI) さん
陳鵬 (CHEN PENG) 君
林文君 (LIN WENJUN) さん
于小高 (YU XIAOGAO) 君
朱勇豪 (ZHU YONGHAO) 君

中国 煙台大学から



左から
馬照旋 (MA ZHAOXUAN) さん
孫珊 (SUN SHAN) さん
王曉倩 (WANG XIAOQIAN) さん
陳春華 (CHEN CHUNHUA) さん

韓国 大田大学校から



左から
李垠河 (LEE EUNHA) さん
崔塞岩 (CHOI SAEAM) 君
文晟準 (MOON SUNGJUN) 君
金亨南 (KIM HYEONGNAM) 君

STAFF NOW!

■ キャリア支援センター
進路・就職活動のサポートをしています。

奥野 充輝也
オクノ ミキヤ
本学商学部商学科卒



● 趣味：アウトドア・運動が好きで、毎年キャンプ・スノーボード・RSR(Rising Sun Rock Festival)に行っています。運動は週2回程度ジムに行き、運動しています。

● 学生へのメッセージ：『その場にとどまるためには全力で走り続けたいといけない。』
アメリカの生物学者ヴァン・ヴェーレンが『鏡の国のアリス』に登場する赤の女王の言葉を引用し、個体の生き残りについて説いたものです。現在の日本社会は人口減少・AI(人口知能)の台頭などの変化により、社会から求められる人物が劇的に変化し、新しい知識を身につけ、変化する環境に適応しないと生き残るのが難しくなっています。あえてここで求められる人物を挙げるのであれば、答えが1つではない問いに対し、自分なりの答えを導き出せる人物が求められています。大学は自分なりの答えを導く練習ができる最適の場です。是非就職活動が開始されるまでに全力で走り続け、少しでも求められる人物に近づき、生き残れる人になってもらえればと思います。そのために私も全力でサポートしますので気軽に相談に来てください！（奥野）



本年度も学生たちの地域交流が始まりました

新年度に入り、北海商科大学の学生とキャンパスのある豊平地域の交流が始まりました。4月15日には、キャンパスに隣接する旭水町内会との交流会が開催され、本学の留学生17名と客員教授や教員が、町内会の活動拠点である旭水会館を訪問しました。

この会館には豊平川の氾濫防止と事業の安泰を祈願して、1887(明治20)年に建てられた「豊平川神社」が同会館に移され、地域の方々が大切に守ってきた神社があります。当日は、町内の方々による春の例大祭が執り行われ、祭礼の後は、学生たちと地域の方々で「なおりい(祭りなどの儀式的終わった後、供物などを参列者一同で分けて食べる宴会)」のテーブルを囲み、楽しい時を過ごしました。来札したばかりの留学生たちにとっては、初めての地域交流であり、意義ある留学生生活の一步になったと思います。

5月27日には「環境ボランティアサークル」の学生と留学生も参加して、キャンパス周辺の花植えを、町内の方々と一緒に行ないました。こうした取り組みをしながら、今後とも地域の方々と交流を重ねていきたいと思います。（加藤）



写真上：豊平川神社例大祭に参加する中韓の交換留学生、写真下：豊平地区町内会連合会の花苗植栽活動に参加した環境ボランティアサークルと留学生

12

13

14

15

16

留学だより



韓国・大田大学校留学

● 観光産業学科3年 長岡 つばき

私は今、1年間交換留学生として韓国の大田大学校に留学しています。大田大学校での留学は二度目ですが、1年時の留学とは違い韓国の学生と一緒に大学の講義を受けているため、現地のスピードについていかなければならなく大変な部分もありますが、より韓国語を身近に感じ、語学の向上につなげています。外国人体育大会では色々な国の留学生が参加しており、一緒に競技を行ったり、一緒に応援したりなど日本では味わえない異文化に触れることができ、交友を広げ日々新鮮な毎日を送っています。また、トーキングクラブという韓国の学生との勉強会がありますが、言葉を教え合ったりお互いの国の文化について話したり、身近な話題などで交流を深めています。3カ月経ちましたが、これからも積極的に行事に参加するなど留学生活がこれからの自分につながるように、残りの留学生生活を悔いなく充実した生活をしていきたいです。



大田大学校の仲間達と



中国・煙台大学留学

● 観光産業学科3年 石井 利磨

煙台に来てもうすぐ3ヶ月になります。留学に来たと行ってもすぐに中国語を話せる習慣が身につくわけではないですが、地道に努力して、少しずつ語学力の向上を実感しています。

留学に来て良かった点は、煙台で生活しながら、実際に中国人が使う言葉を学べることです。どんなことをするにも中国語が必須な生活を過ごしていく中で、中国人が普段どのような言葉を使っているのかを目の当たりにできることが良い経験になっています。また、この煙台で中国語を学んでいる同じ外国の人達と交流できることも、プラス要素になっています。この煙台で日本人である私と、他のアジアの国、ヨーロッパの国の人達と中国語を使って会話することは、とても魅力を感じます。中国語を使って行うことの全てが語学力向上に繋がっています。約1年間という時間はとても短く足りませんが、今だからできる留学だと考えているので大切に過ごしています。第2セメスターから煙台に来る1年生の皆さん、一緒に頑張りましょう。



煙台大学の運動会開会式前に同じクラスの留学生達と



中国新疆のカナスで初雪にみまわれた日、2015年9月24日撮影

研究のいま

石原 享一 教授



来年の春やよいには本学を去る身です。寄稿の依頼を受け、わが研究のよもやまを振り返ってみることにしました。

私のこれまでの研究は以下の3つのテーマに分けられます。

1つ目は、現代中国の経済。最初の勤め先となったアジア経済研究所では上司に恩師、小島麗逸がいました。院生時代、私は実証研究の何たるかがわかっていないと師から叱られたことがあります。両腕を大きく広げて、「資料やデータをこれぐらい集めても、実際に使えるのはほんのちょっとだ」と、指で2センチくらいの幅を示されたときにはほとほと参りました。それから、一橋大学の経済研究所の地下書庫に毎日通い、中国の新聞や雑誌のバックナンバーを読み込んだのを思い出します。

アジ研時代には、在中国日本大使館、香港大学アジア研究センター、カリフォルニア大学バークレー校東アジア研究所に籍を置く機会を与えられました。

中国では通産大臣一行に随行して中南海に入り、時の首相、趙紫陽との会見に同席したことがあります。われわれ一行が辞するさい、趙は一人ひとりと握手し、最後尾の私には肩までたたいて、ねぎらってくれました。1989年の天安門事件で趙は失脚します。その一週間ほど前には、趙は天安門広場まで出かけていき、危機が迫っているから退去するようにと、ハンドマイクで学生たちに呼びかけていました。

“アンジン”こと安東仁兵衛から『現代の理論』への寄稿を頼まれたこともあります。



『戦後日本の経済と社会—平和共生のアジアへ』（2015年、岩波ジュニア新書）ほか著作

社民連を立ち上げ、「現代の龍馬」と称された人です。原稿料の振込先を聞かれたので、原稿料相当分の掲載号を送ってくださればよいと伝えました。後日、段ボール箱いっぱい雑誌が届いたのには吃驚しました。

研究の2つ目のテーマは、国際政治経済学や国際交流論。神戸大学国際文化学部に移ったことと関連しています。『知と実践の平和論—国際政治経済学と地域研究』（明石書店）や『文化摩擦と日本人—平和の作法とは』（白帝社）を上梓しました。

3つ目のテーマは、戦後日本の歩み。JICAやJICEが途上国の青年を招へいして行なう事業のなかで、日本紹介の講義を二十数年にわたって担当してきました。本学に勤めるようになってから、『戦後日本の経済と社会—平和共生のアジアへ』（岩波ジュニア新書）と題してまとめました。

以上の研究の成果は外国語でも出版されており、英文では*China's Conversion to a Market Economy* (IDE)、中文では《世界往何处去》（世界知識出版社）や《世界凭什么和平共生》（同）として刊行されています。

本学での勤務期間は長くありませんが、「逡巡する中国の新改革」、「中国の食品安全問題と企業文化」、「新疆ウイグル自治区の経済構造」、「中国の観光産業政策と観光統計の整備」などの論考を発表しています。ようやくにしてアジ研時代の研究テーマに戻ってきたといえるかもしれません。

ゼミ訪問 ◆ 加藤 由紀子 教授 観光研究ゼミナール ◆



観光産業学科では、観光ビジネスに必要な幅広い知識やコミュニケーション能力を系統的、学際的に学びます。2年生後期（第4セメスター）から始まる専門ゼミ観光研究ゼミナールは、さらにそれ以後の5、7セメスターで習熟度や応用力を高めるため、ゼミナールⅡ、Ⅲ、Ⅳと続きます。今回は加藤由紀子教授のゼミナールⅡ、Ⅳを訪ねました。

加藤由紀子教授（以下加藤教授）が専門としている研究分野のひとつが観光ビジネスにおける人材育成です。運輸、宿泊、旅行業など観光に直接関わりある業種だけではなく、農業、ものづくり、体験的アクティビティなど観光をもっと広く捉え、どのような人材が求められているかをテーマに研究を続け、また民間企業との異業種交流など多様な人的関わりを積極的に持ち研究会活動にも取り組んでいます。

ゼミ生は3年生13名、4年生1名の構成です。現在は加藤教授が主宰するインパウンド研究会での発表のためのスライド作成に取り組んでいます。また、加藤教授は航空業界での人材育成にも携わってきた経験から、関わりのある航空会社HAC北海道エアシステムが北海道150年事業として募集をしている旅行プランの企画立案にも参加するためのゼミ活動も行なっています。ゼミを訪ねた日は14人のゼミ生が4グループに分かれ「HAC若者の翼」プロジェクトの課題となる旅行プラン作成を行なっていました。ゼミではPBL (Project-Based Learning) (略称) 課題解決型学習を重視して学生の主体的、能動的な学習を行なっています。北海道エアシステムの拠点空港である札幌市内の丘珠空港にフィールド



加藤ゼミの皆さん



来道外国人観光客数が2015年に200万人を越え、この10年間でおよそ3倍に増加し、観光産業は北海道経済を底上げする力になるものと期待されています。北海道庁でも来道外国人観光客の拡大を目指し「北海道観光のくにづくり行動計画」（2018年）を策定しましたが、これらを担うのはやはり人材にほかなりません。加藤ゼミ生の活躍を期待します。

中国社会科学院と「一帯一路」シンポジウム開催

中国の対外構想「一帯一路」と日中関係について展望するシンポジウムが平成29(2017)年12月21日、北海商科大学多目的ホールで開催され、中国社会科学院世界经济政治研究所(IWEP)の張宇燕所長や学校法人北海学園の森本正夫理事長、本学の阿部秀明・大学院研究科長らが参加しました。北海学園北東アジア研究交流センター(HINAS)とIWEPの主催です。

張所長は基調講演で、一帯一路が提案された背景について、中国国内市場における需給のミスマッチや労働力人口の減少により、経済の構造改革が必須となっている現状を挙げました。そのうえで「一帯一路はグローバルで長期的な発展を目指す」と説明しました。本学の西川博司教授は「一帯一路の位置づけが曖昧だが、戦略として目標や手段を明確化すべきではないか」と提起しました。

本学の伊藤昭男教授は、一帯一路の枠組みで中国から東欧や中央アジアへ巨額投資を行うのみでは「過剰供給・生産に陥った国有企業の救済的側面が強くなる」と指摘し、解決策として多国間の自由貿易枠組みに中国が積極的に参加するよう提案しました。

一帯一路と日本の関わりについて、王徳迅IWEP副所長は、危機管理を主軸とした国際協力において、防災の経験が豊富な日本の役割は大きいと指摘しました。本学の石原享一教授は、米中2大国が世界戦略を刷新する中で、日本も「再生可能エネルギーの技術や日本独自の企業文化を発信することにより、国際社会に独自の道を示すことができる」と述べました。（佐藤 千）



写真上・左：張宇燕所長による基調講演、写真右：中国社会科学院研究員の皆さん

東アジア社会の自立と協調

2018年度 前期公開講座

- 日時：平成30年5月26日～7月14日
- 場所：北海商科大学1号館 8 階会議場
- 参加対象：一般市民（含む学生）

平成30(2018)年度前期公開講座は、「東アジア社会の自立と協調」をテーマとして、5月26日(土)から7月14日(土)まで5回にわたって開催します。その講師陣は、中国国务院直属の中国社会科学院の教授、本学の協定校である中国と韓国からの交換教授、商学・観光等の専門家の方々、さらに本学の教授です。近年、これまでになく生涯学習へのご要望が増加し、多くの大学が何時でも何方でも学べる場として、様々な企画を広く提供しています。本学は社会の動向を絶えず把握し、地域の皆様のご期待に応えられる講座を今後とも開催していきます。なお本講座は、生涯学習の場である「道民カレッジ」の連携講座（教養コース）としても開講しております。どうぞお気軽にご参加くださいますようお願い申し上げます。（田辺）



6月9日に行われた第2回の公開講座

第1回 5/26 (土)	●韓国の大学と青年問題 大田大学校教授・本学交換教授 朴 喜南 ●東南アジアの世界遺産から偏西風文化を考えるーインド文化圏を巡ってー 北海商科大学教授 中鉢 令兒
第2回 6/9 (土)	●中日交流における言語接触 煙台大学外国語学院講師・本学交換教授 于 伝鋒 ●東アジアにおける移民の現状ー多文化共生の可能性を探るー 北海道大学公共政策大学院講師 池 直美
第3回 6/23 (土)	●東アジアの国際ハブ空港形成とわが国の戦略 北海商科大学教授 田村 亨 ●東アジアにおける北海道観光 株式会社北海道二十一世紀総合研究所調査部特任審議役 木本 晃
第4回 6/30 (土)	●中国対外開放ー過去、現在と未来ー 中国社会科学院世界経済政治研究所所長 張 宇燕 コメンテーター／中国社会科学院世界経済政治研究所研究員 馮 維江 コメンテーター／北海商科大学教授 伊藤 昭男
第5回 7/14 (土)	●一帯一路は戦略か政策かー過去、現在と未来ー 北海商科大学教授 西川 博史 コメンテーター／北海商科大学准教授 佐藤 千歳

※全5回、10：30～12：30

サークル活動紹介

本学には、軟式野球、陸上競技、バレーボール、テニス、フットサルなどの体育系サークルと同好会、文系では、中国語、韓国語、英語の各語学サークル、教育、ツーリズムの各研究会、環境ボランティア、軽音サークル、そしてサークル連合などの運営団体2団体が活動を行なっています。

平成30(2018)年度のサークルPR活動が、入学式翌々日の4月5日の新入生ガイダンス後に行われました。新入生は、北海商科大学サークル連合執行部が発行した「北海商科大学サークルPR BOOK2018」が渡され、それをもとに1号館2階の自由学習コーナーと2号館1階の多目的ラウンジにおいて、サークルの代表者などから、活動内容や日程などの説明を受けていました。

サークル活動などを通じて、色々な人たちと出会い、多様な価値観に触れることは人としての成長につながります。相手の思いを理解し、自分の思いを伝え、共通の目標に進んでいくためのコミュニケーション能力は、こうした活動などを通じても養って欲しいと思います。（加藤）

スピーチコンテスト・語学検定報告

韓国語能力試験で優秀な成績

去る平成29(2017)年10月22日(日)に、韓国・国立国際教育院が主催し、韓国大使館と公益財団法人・韓国教育財団が主管する第54回韓国語能力試験が本学の1号館にて実施されました。本学からも韓国語を履修した1～3年生が主に中級（3級～6級）の試験に臨み、熱心に問題と取り組みました。結果は11月30日に発表され、1年生は受験した全員が1・2級のどちらかに合格するという快挙を成し遂げ、2～3

年生では3級に3名、4級に7名、5級に7名、最上級の6級にも1名が合格するなど、優秀な成績をおさめました。また、去る1月14日に韓国で行われた第56回韓国語能力試験に本学から韓国に留学中の1年生が挑戦し、5級に1名、最上級である6級に1名が合格するなど、優秀な成果を収めました。本年度の韓国語能力試験も4月・7月・10月に本学を会場として実施される予定です。（水野）

「漢語橋」中国語スピーチコンテスト北海道予選大会で入賞

中国教育部が主催する「漢語橋」世界大学生中国語スピーチコンテストは、各国において、ブロックに分けた地域で予選大会が行われています。中国語を学んでいる志を抱く大学生は、それぞれの地域において主催されている予選大会に出場し、日ごろの学習成果を披露します。第17回北日本ブロック大会は、5月26日、札幌大学において開催されました。

本学では、4年生の本間麻友さんと3年生の山端大地君が参加しました。中国の厦門大学に留学中の本間さんは24日にわざわざ帰国し、中国人留学生の指導を受けて大会に臨みました。スピーチ後の質疑応答コーナーにおいて、しっかりと受け答えをし、その実力を発揮し、見事に本大会での二度目の二位入賞を果たしました。ま



た、山端君は「四海之内皆兄弟！～地球村～」というタイトルのスピーチを流暢に発表し、中国文化技能コーナーにおいて、「中国コマ」の技を披露しました。狭い空間の中で素晴らしい演技を演じ、審査員を含めた会場の全体から喝采を博しました。本大会において、中国文化技能を披露した参加者は、本学の学生山端君が始めてでした。（蘇）

20

22

21

23

24



平成30年度 サークル一覧	
体育	テニスサークル
体育	軟式野球部
体育	バレーボールサークル
体育	フットサル部
体育	陸上競技部
文化	英語サークル
文化	環境ボランティアサークル
文化	韓国語サークル
文化	教育研究会
文化	軽音サークル
文化	中国語サークル(歓々喜々)
文化	ツーリズム研究会
運営団体	サークル連合執行部
運営団体	体育祭・大学祭実行委員会

サークルPR活動・サークル説明会

OB・OG NOW！

北広島市の出身で、北海商科大学の「アジアの時代にアジアを学ぶ」というグローバルな視点を持った教育に興味を持って入学を決めました。

商科大に在学中は、中国語と中国文化の勉強に力を入れ、西川博史先生の中国経済や中国思想、蘇林先生の中国語や中国文化についての授業やゼミに参加して学習を深めました。座学だけではなく、中国内モンゴル自治区エンゲベで砂漠の緑化事業に参加するなど、現地での経験を深めることもできました。商科大3年生のときには、中国の北京語言大と東北部の黒龍江大に1年間ずつ、合計2年間留学しました。異国の地で別の言語を使い、各国の友人と交流する事ができたのは、とても貴重な経験になりました。中国語や中国に対する理解についても留学前より自信をつけることができました。

中国から帰国後に取り組んだ就職活動では、業界を絞らずに様々な企業の説明会に参加しました。最初は興味がなかった企業でも説明会に参加することで、その企業の印象がまったく変わったことがあります。就職活動を通して、自分の視野が広がっていく楽しさがありました。

就職活動を行うなかで、物を運ぶことでさまざまな企業を支えることができる物流業界に興味を持ちました。その中でも日本通運は、世界各地に拠点をもち、国内外の企業間物流を行っております。世界中の企業間を繋げることができる物流会社の一員になりたいと思い、弊社への入社を志望しました。

現在は、日本通運苫小牧支店内航海上システム課で勤務しています。仕事の内容は、国内貨物の海上輸送を行っています。そのなかでも、とくにトレーラー輸送の手配や営業を担当しています。日本通運は中国各地に拠点があります。北海商科大で学んだ中国についての知識や経験を活かして、将来的には中国での物流事業にも従事したいと考えています。

趣味は映画鑑賞と卓球です。なかなか趣味の時間をとれませんが、よい休息になっています。



- 日本通運株式会社 皆川 隆貴さん

〔平成27年 本学商学部商学科卒業〕



中国留学時、本学の中国内モンゴル自治区クブチ砂漠緑化植林に参加



勤務先の日本通運苫小牧支店にて

高校生懸賞作文を募集

平成24(2012)年度より高校生を対象とした懸賞作文の募集を行っており、今年度で6回目の開催になります。この懸賞作文は高校生の素直で鋭い観察眼で現在の市場、マーケティングに関心を持って頂くことを趣旨として、北海道内の高校生を対象として募集します。

作文のテーマは、①日本と世界の人に広く薦めたい私のまちの観光スポット、②日本と世界の人に広く薦めたい私のまちのグルメ、③日本と世界の人に広く薦めたい私のまちのお土産です。これらの中からの一つのテーマを選択していただきます。締切は2018年9月25日(火)です。応募要項、パンフレットは、6月下旬に道内の各高校に郵送するとともに、北海商科大学のホームページでもお知らせします。

入賞者には森本学長より、表彰状と副賞（図書券）が手渡され、審査講評と懇親会を開催する予定です。

ご兄弟、高校の後輩、お知り合いの高校生に是非ご案内ください。（橋元）

新任教員・職員紹介



■新任教員
伊藤 寛幸
イトウ ヒロユキ
准教授

観光産業論、観光事業論など広く観光関連の講義を担当し、地域計画と関連付けて、“まちづくり”の研究をしています。私は、酪農学園大学、酪農学園大学大学院に進学し、卒業後は、北海道農業近代化コンサルタント、(株)ルーラルエンジニアに勤務しておりました。働きながら北海道大学大学院に通い博士号（農学）を取得いたしました。その時の夢（“大学という空間で学生と教育の時間を共有したい”）を捨てきれずに、その夢を叶えるべく、この度、北海商科大学に採用していただくことができました。この4月より新たな気持ちで学生らと接していて、わたし自身気が付いたことがあります。それは、『大学で“何をしてきたか！”が重要ではなく、“何をしてこなかったか！”がとても重要である』ということです。学生の皆さんとともに、私も、日々緊張感をもって学園生活を送って参りますので、よろしく願いいたします。



■新任職員
小池 祐作
コイケ ユウサク
庶務・会計担当

2018年北海学園大学経済学部地域経済学科卒業。4月より北海商科大学事務室配属。少しでも早く、学生・教職員の皆さまのお役に立てよう精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



■新任教員
坂口 可奈
サカグチ カナ
講師

はじめまして。「国際関係論」や「ASEANの政治と経済」など、国際関係や東南アジア諸国の政治経済社会に関する講義を担当しています。私は2014年に早稲田大学政治学研究科で博士（政治学）を取得し、その後は早稲田大学政治経済学部で助手として働きつつ、日本女子大学や大東文化大学で非常勤講師をしてきました。大学で学ぶことの意義は、ただ専門知識を身に着けるだけではありません。議論を通してものごとに対する多様な見方や考え方を学ぶこと、幅広い視野を持ち深く考える訓練をすること、考えを他人に伝える訓練をすることも重要です。幸運なことに、私は今まで日本国内にしながら、国籍、民族、文化、価値観において多様な環境にいました。専門知識だけでなく今までの経験も伝えることで、学生さんの視野を広げ、彼らが幅広い視野を持って深く考えることのできる大人になれるよう手助けしていきたいと考えています。

交換教員紹介



■交換教員
于 伝鋒
ユ チュワンフォン

大家好！中国・煙台大学から交換教員として来た于伝鋒です。私は1980年3月山東省徳州市に生まれました。2005年山東大学(威海校)日本語科卒業し、同年9月に北京師範大学日本語科に入学しました。2008年7月同大学修士号を取得し、煙台大学に入職し、現在に至るまで日本語教師として活動しています。基礎日本語、上級日本語、日本事情、日本語語彙論、日本語翻訳理論と実践などの科目を担当してきました。日本語、日中言語対照、第二言語習得の諸分野に関心を持ち、「第二言語教授法における日本文化の役割」等8本の論文を発表し、『日本語誤用辞典』『日本語ことわざの達人』等翻訳し、そして日本語教科書数冊共同編集し、出版しました。皆さんに中国語の履修を通して、中国語語学能力の向上とともに中国文化について理解が深まることを期待していると同時に日本語を専門とするわたしも含めて、両国の交流事業になにかできればと思います。煙台大学ではみなさんの交換留学を待っております。



■交換教員
朴 喜南
パク ヒナム
韓国・大田大学校から交換教員として来た朴喜南です。北海道には北海

商科大学が北見にあったとき、大学間の交流で何回か訪問したことがあります。そのとき、大学の関係者みなさまが本当にやさしくて印象深かったことと、北海道をバスとかで見た外の風景は本当に美しくて、永遠の思い出になりました。

私は大田大学校の国際言語学科で、日本語文法、語学概論などの科目を担当していますが、教養科目や一般人向けの講義を通して日本文化を紹介することもあります。それで、もっと日本のいろいろなことについて勉強したいし、行ってみたいですね。外国語の先生は1年の中で何ヶ月はその国で生活する必要があると言われていますが、私も授業で日本の変化をつかめずに学生に話した経験が何度もあります。皆さんと話し合いながら、勉強できる北海商科大学での半年間は私として、すごく大事であり、また、こういう機会をくださった北海商科大学にも感謝します。

大学で韓国語の授業を行っていますが、北海商科大学の学生は本当に明るく、韓国語の上手な学生が多いですね。これからもどんどん外国語ができ、明るくて魅力溢れる学生として“アジア時代の主役になる人材”として発展することをお祈りします。私も微力ながら、みなさんに少しでも役に立ちたいと思いますので、よろしくお願いします。

新刊紹介



『台湾の若者を知りたい (岩波ジュニア文庫)』
水野俊平(本学教員) 著
2018年5月／岩波書店

『現代中国の宗教変動とアジアのキリスト教(現代宗教文化研究叢書7)』
櫻井 義秀ほか 編著／佐藤千歳(本学教員)他共著
2017年3月／北海道大学出版会



『地域経済強靱化に向けた課題と戦略ー北海道の6次産業化の推進と物流の課題の視点から』阿部秀明・相浦宣徳(本学教員)他共著
2018年1月／共同文化社

Books NOW! 附属図書館

●ベストリーダー!!

2018年度前半に貸出が多かった図書です。

	請求記号	タイトル	著者名
1	837.8/YAM/海外旅行	絵で見てパッと言う英会話トレーニング 海外旅行編	Nobu Yamada
2	837.8/YAM/基礎	絵で見てパッと言う英会話トレーニング 基礎編	Nobu Yamada
3	837.8/NAT	ネイティブ英会話 フレーズ集3240	佐々木隆
4	081/SHI/ト	シャーロックホームズの思い出	コナン・ドイル
5	081/WA/634	ブランド価値の創造 岩波新書新赤版	石井淳蔵
6	140.1/GOB	マズローの心理学	フランク・ゴープル
7	913.6/SUM	君の脾臓をたべたい	住野よる
8	081/NK/537	経営組織 (日経文庫 経営学入門シリーズ)	金井壽宏
9	290.93/CHI	地球の歩き方 D11台北2016-17	地球の歩き方編集室
10	081/KOD	ブラックペアン1988 上・下	海堂尊

図書館では学生の皆さんからの購入リクエストも受け付けています。ご利用ください。

@学生相談室ニュースレター6



「不安とのつき合い方」

学生相談室 カウンセラー **小林 美穂子**
E-mail : soudan@hokkai.ac.jp

新年度に入って、2ヶ月が経ちました。みなさん、いかがお過ごしですか？新しい環境に徐々に慣れていく一方で、新たな悩みが出てくる時期かもしれませんね。マイナビ学生の窓口調べでは、大学生の悩みのトップに将来への不安があがっています。

ところで、この不安はない方がいいのでしょうか？一般的に「不安はない方がいい」と答える方が圧倒的に多いです。確かに、不安は不快な感情です。しかし、失敗すると困るからよく準備して慎重に取り組もうというように、不安は物事を安全な方向に導くために必要な役割を果たしています。たとえば、「試験に合格できるだろうか」「就活、うまくいだろうか」という不安があるからこそ、勉強したり、準備したりするわけです。

ここに、「試験に合格できるだろうか？」という不安を抱えている学生のAさんとBさんがいるとします。Aさんは現実逃避をしたくて、ゲームをして気を紛らわしています。Bさんは、不安ながらも、復習したり、過去問を解いたり、勉強に取り組んでいます。どちらの不安が軽減されるかは明白ですね。つまり、排除すればするほど不安は大きくなりますが、目的に向かって行動することによって徐々に薄れていきます。

ポイントは、不安がありつつも、目の前の勉強や課題にひとつひとつ取り組んでいくことです。悩んでジッとしているより、目的にそって動いてみるのが大事です。

しかし、そうは言っても、不安に押しつぶされそうなときもあるかもしれません。そんなときは、一人で悩まず、どうすればいいのか一緒に考えましょう。先ずは、上記のアドレスに、カウンセリング申込みの連絡をくださいね。（小林）

行事予定

6/24 日	第1回オープンキャンパス	9/18 四	履修登録(1年次午前、2年次午後)
6/27 水	第2回所属学科選考ガイダンス[2年次]	9/19 金	履修登録(3年次午前、4年次午後)
6/29 金	志望学科届提出期限[2年次]	9/20 金・21 金	履修登録訂正日(全学年)
7/17 四	振替講義日(月曜日)	9/20 金・21 金	北海商科祭準備日(予定)
8/4 土	前期講義終了	9/22 土	北海商科祭(予定)
8/5 日	夏季休業開始	9/25 四	後期講義開始
8/6 月	成績開示開始、 成績・採点異議申し立て受付	9/30 日	第3回オープンキャンパス
8/7 四	成績・採点異議申し立て受付終了	10/10 四	振替講義日(月曜日)
8/8 四・9 金	第2回オープンキャンパス	11/16 金	後期修学指導面談(予定)
8/13 四～16 金	全学休業日	11/25 日	推薦入学試験(指定校・公募Ⅰ期)
8/22 四	海外語学留学生出発【韓国】(予定)	12/22 土	推薦入学試験(公募Ⅱ期)
9/2 日	海外語学留学生出発【中国】(予定)	12/25 四	振替講義日(月曜日)
9/7 金	前期修学指導面談①(予定)	12/27 四	冬季休業開始
9/8 土	前期修学指導面談②(予定)	2019/1/8 四	冬季休業終了
9/12 四	夏季休業終了、2年次所属学科発表	1/9 四	講義再開、卒業論文提出期限
9/13 金	ガイダンス(3年次午前、2年次午後)	1/17 四	振替講義日(月曜日)
9/14 金	ガイダンス(1年次午前、4年次午後)	1/19 土・20 日	大学入試センター試験
		1/30 四	振替講義日(土曜日)